八代市議会海外行政視察復命書（視察結果報告書）

■視察期日

２０２０年1月6日（月）　～　1月１０日（金）

■主な視察先

北海市人民代表大会（市議会）への表敬訪問等　　１月７日（火）
鉄山港工業団地内の企業視察（北海市）　　１月８日（水）
鉄山港湾視察　（北海市）　　１月８日（水）

■視察目的

北海市人民代表大会（市議会）への表敬訪問と意見交換による友好協定の関係強化、議会制度について調査、鉄山港の工業団地における企業視察、鉄山港湾の視察、北海市内視察等を目的としました。

■視察参加者

議員　橋本 幸一
議員　中村 和美
議員　谷川　登
議員　西濵 和博
議員　福嶋 安徳
議員　前川 祥子

北海市

北海市（中華人民共和国広西壮族自治区）と八代市は 1996 年（平成８年）３月に「友好都市」の協定を締結。以来、教育や文化、スポーツ、医療、経済などの分野で行政や市民による交流が進んでいる。人口は１７１万人、中国に１４ある沿岸開放都市の１つに指定されている都市である。

○ 調査事項

① 北海市人民代表大会（市議会）

友好都市締結以降の 2005 年（平成 17 年）８月の市町村合併以降も友好都市を継続し、現在に至っている。これをふまえ、市議会を訪問し、情報交換などを行い、友好都市としての今後更なる関係強化を図るものである。

② 鉄山港工業団地内の企業視察

工業団地内の造船、ガラス、製紙の３社を視察。いずれも民間経営主体で、市外の会社による北海市への進出であり、広西自治区と北海市から支援を受け、順調に業績をあげている企業である。

その支援内容は、企業へのアクセス道路のインフラ整備をはじめ、工業用地の提供、財政的な支援などがあり、民間資本による大規模な企業立地が急速に進んでいるなど、今後の本市経済に活かすため、調査を行うものである。

③ 鉄山港湾の視察

港湾内に立地してある２つの発電所において発生する水蒸気排熱により、工業団体各会社の熱エネルギー源としての利用があるなど、港湾機能の充実が企業の発展につながっていることなど、本市にある港湾施設参考のため、調査を行うものである。

④ 北海市内の視察

本市とも交流のある北海市立図書館では、最新鋭の AI 技術などが取り入れられており、利用者のニーズに応えたコーナーや利用しやすいスペースなど、各世代を考慮したレイアウトとなっている。

また、市内には、中学から高校受験に失敗した生徒たちの受け皿として中等職業技術学校などが創設されている。これらの最新技術の活用や学校制度について調査を行うものである。

≪各議員所見≫

北海市視察報告

橋本　幸一

本市と平成８年３月５日友好都市締結された北海市は、中国華南地方、広西チワン族自治区の中にある、人口 171 万人の都市で,昔海のシルクロードの出発点とも言われていて貿易と漁業が盛んで、中国に１４ある沿海開放都市の１つに指定され、現在は、工業と共に、東洋のハワイと称され観光も急速に発展しつつある都市であります。今回初めて八代市議会議員だけの、視察訪問団として北海市を視察させて頂きました。

１月６日、私たち６名は、八代市との友好都市中国北海市へ向けて、

午後二時半、福岡空港から、上海へ向けて出発致しました。

当日は、そのままホテルで一泊し、翌日、九時二十五分発北海行きの飛行機にて向かいました。約三時間のフライト後、目的地の北海市に到着し、昼食後、最初の視察地、北海市立図書館を視察致しま

した。１９６６年建設された、北海市立図書館は、その後、１９９６年改築された５階建ての立派な図書館で、８０万冊の蔵書で、年間４０万人の利用者が３３万冊の本の貸し出しがあっているとのことで、他にも、中国全土の１４０社の新聞も読むことのできるコーナーや、IT を活用した、幼児から大人まで利用できる設備を備えたコーナーや、セルフ図書館として 24 時間利用できるコーナーもあったり、また移動するロボットが入り口にいて情報の検索もできたりと、日本の図書館では、類を見ない図書館でありました。

館内には八代市コーナーもあり、これまで、青少年の使節団訪問の際、環境に関する本が、毎回送られているとのことで、現在、３６０冊の本が北海市立図書館に送られて利用されています。

その後、この地が昔、貿易港として栄え、海のシルクロードの出発点とも言われていて、その当時のたたずまいがそのまま残され、現在は、観光地として多くの観光客で賑わっている老街（古い街並み）に案内して頂きました。

私たちはその後、北海市人民代表大会（市議会）の表敬訪問・意見交換会に向かいました。

謝安可北海市人民代の副主任はじめ人代の皆さまの歓迎を受け、謝安可人民代副主任の歓迎の挨拶の後、私がお礼の挨拶をさせて頂きました。

意見交換会では、これから、いろいろな分野の交流の促進、また、八代市と北海市の議会の内容の質問等が双方からあり、両市の議会との違いとしては、北海市においては、１期の期間が５年で、現在、３６名の議員で構成されていて、自治区には独自の法律の制定ができ、現在まで、環境に関する法律、自治に関する法律など、６つの法律を制定しているとのことです。また、日本の進んだ、環境政策に高い関心を示されました。又これから両市の議会同士の友好議会締結をしましょうとの強い要望が出されました。その後、歓迎レセプションが開かれ、お互い納得のいく交流を行うことができました。

北海市２日目は、北海市の工業団地、鉄山港の企業視察を行いまし

た。１０億元（日本円にして約１６０億円）の税金を払う企業が、１７社あり、そのうちの３社を視察させて頂きました。

国営民間が主で、現在は、国営は少なくなりつつあり、合弁会社は少ないとのことです。現在、道路等のインフラ整備が盛んに行われていて、８車線化が急ピッチで行われておりました。

最初の会社視察は、華僑の経営による造船工場を視察させて頂きました、３期のプロジェクトのうち、まだ１期目の段階で、年間５０隻の新造船と修繕を行っていて、今後は鉄鋼事業にも取り組まれるとのことです。

次に、ガラス工場の視察で、香港の株式会社が行っていて、天津でガラスとエネルギー関連業を主として起業され、２０１８年で、２３８億元の生産額、国内最大の企業で、８つの中国内の工場があるとのことで、北海市の工場は、１２２億元の投資で、面積が２７８ヘクタールで、１期から３期までの工事が計画され、ここも、第１期目とのことです。

北海市の地下には、ガラスの原料である、石英砂が大量に埋蔵されているとのことで、今後、中国で最大のガラス工場になるとのことです。

また、ここは、オートメーション化され人影もまばらであった。従業員も１２０名とのことで、この広さからすると、納得できました。

その後、昼食をとり、午後からは、製紙工場の視察を行いました。フィンランドとスウェーデンとの合弁会社で女性のオーナーが経営され、ここも、３期工事で計画され、現在１期目で１７０ヘクタールの広大な面積に、１９２億元が投資され、主に、紙パックに使う紙を製造されていて、現在、４５万トンの製品を、製造され、２２億元の売り上げとのことで、今後さらに売り上げが望めるとのことです。現在一部、外国から原料を輸入しているが、近い将来、会社の持つ９万ヘクタールの山林に植えてある、成長の早いアンジュの木が利用するようになれば１００パーセント北海市で原料が調達できるとのことです。

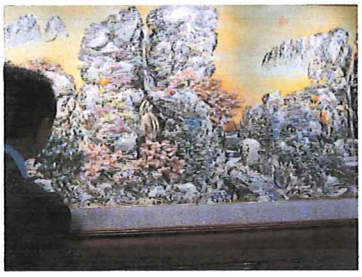
これまで、アンジュの木は貧乏の木と言われてきたが、今後は、宝の木となるとのことです。

この鉄山港には２つの発電所があり、ここから出る水蒸気の廃熱で、これらの会社の熱エネルギー源として、利用されているとのことであり、この地域の企業の更なる発展が想像されます。実際、この地帯に広がるサトウキビ畑が工業用地として造成されているところが随所に見られました。。

鉄山港視察の後は、中等職業学校を視察させて頂きました。１９８１年開校され、７０００名の生徒に５００名の先生で教えておられるとのことで、中学校から高校を受験する場合、中国では１回しか受験できず、高校受験に失敗した生徒が大部分この学校に入学してくるそうで、１９コースの職業科があり、中国内に約１０００校あるその内の１つであるとのことです。この学校はその中でも、特に有名であるとのことです。１９コースの中で、貝芸コースを見学させていただいたが、中国内でも有名な先生が教えておられ、先生の

作品が数多く展示されていたが、どれも目を見張る素晴らしい作品でありました。

この学校は３年間で、最後の３年生になると、自分の希望する会社に体験で仕事することができ、給料も正社員の半分くらい払われ、それは職業学校の収入になるとの事で、日本では考えられない制度です。



その後、今回の視察のお世話をして頂いた、北海市外事弁の皆さん、中等職業学校の校長先生と、北海市最後の夜の歓迎レセプションを開いて頂きました。この中でも、八代市とのこれからの交流の促進と環境の面でも高校生等の若い世代の情報交換を積極的に行っていきたいとの要望が出ました。外事弁の皆さんとは、短い期間でしたが、心通い合う歓迎レセプションとなりました。

北海市をはなれる、１月９日は最後に、旧外国領事館を視察させて頂きました。当時３つの領事館があり、その内のドイツの領事館は道路拡張にかかったため、建物ごとジャッキアップし、移動して現

在地にあるとのことで、歴史上の文化遺産を大切にしている一環とのことでした。

その後、早めの昼食をとり、１時１５分発の飛行機で上海へ向かい、翌日１月１０日上海を後にし、福岡空港へ無事到着し、有意義な北海市視察を終了することができました。

友好都市北海市は、これまで、話の中で聞くだけの北海市でしたが、実際行って視察し、交流してみて、大きく動きつつある都市で時代の先端もしっかり視野に入れながら頑張っておられる、躍動あふれる友好都市北海市を体感したこと、また友好都市北海市の皆さんが本市に対してどのような思いでおられるのか現地へ行ってみて伺うこともでき、もう１つの中国の発見であり、海外視察の必要性を実感致しました。

中国北海市海外行政視察（中村和美）

令和2年1月6日～10日

○北海市人民代表大会（市議会）への表敬訪問

1. 友好協定関係強化について。

1996年3月5日、八代市と北海市の友好都市締結調印式が、八代市で行なわれた。その後、毎年、八代経済会、医療団、子供達のスポーツ交流、女性交流の翼等が北海市を訪問、北海市からも、同じような団体が、毎年10名前後、八代市へ訪問されている。今回は、謝安河北海市人大副主任や議会より、三委員会主任（委員長）他三名と面会、時に蘇文外事弁公室主任は、依前、八代を訪問されており、たいへん、懐かしがっておられ是非これからも、長い交流を希望するとの事でした。私達一同も、同じ思いです。

2. 議会制度について。

北海市は、一期が五年の任期との事、三委員会（○僑務民族宗教委員会、○財経委員会○教科文衛委員会）があり、議員数36名（内女性議員9名）現在、三委員会とも、主任（委員長）は、女性であった。又、北海市、独自の法律も作る事が出来るとの事、中国ならではと思った。

○鉄山港工業団地内の企業視察

1、ガラス工場、

1988年創業、敷地面積280ha、製造種類は、○太陽光発電用板ガラス、○自動車用、○建築材用の窓ガラスで厚さ5mm、ガラス板が自動的に製品となり、自動的に切断されるのを目の前で見て、発展途上の中国を見た気がした。

2、鉄山港工業団地造船所

敷地面積33万㎡、主に漁船の製造と修理を行なっている。従業員250人、毎年50隻の船を建造、1隻約1,000万元、1500tの船との事、1隻約6ヶ月で完成するとの事である。

3、製紙有限公司

この工場は、従業員1,100名、敷地面積8万ha（内工場170ha）製品はジュースの容器、紙コップ薬箱、カップラーメンの容器等である。日量15万tの生産で年間22億元（×16.5円）の売り上げがある材料は地元の木材と$\frac{2}{3}$は南アフリカからの輸入材との事、将来は、自社地9haに6年～10年の木材を育て、完全操業を目指すとの事でした。政府（広西壮族自治区）も15%の工場建設に補助して、しっかり、サポートしているすばらしい工場であった。

4、公立北海市中等職業技術学校（専門学校）
先生500名、生徒数7000人の15才～18才迄の
男、女共学の専門学校である。19コースあり、私達は
貝がら細工と木彫のコースを見学した。貝がら細工
は、見事な山の風景画をえがいていた。学校の運営
方針としては、①「学校と企業の連系」②「生徒の人
格形成の為の学問を行なう」との校長先生の話し
でした。すばらしい学校でした。

○北海市内視察

二十三年ぶりに、北海空港に降り立ち、高速道路
を北海市内に走る途中、片側四車線化の工事が
何Kmも続いていた。市内に入り、高層マンションの建
設中や、マンションが、たくさん建っていた。ガイドいわく、
北海市は、上海の六の値段でマンションが購入
出来るので、定年後の人達が北海市に集まるとの事。
昔の民家は、殆んど見当らず、道路添いの住宅は
一軒700万円程の真新しい三階建てが目立った。
依前は、故障したトラックが目立ったが今回は、
見なかった。自動車の整備も進んでいると感じた。
又、街並や緑地、道路上には、ゴミ一つなく
きれいに掃除されていて、モーターバイクが市民の
足のようだ。

○その他

北海市立図書館視察

1996年に開館、80万冊の本が蔵書され従業員60名で年中無休（交替制）、入館無料、年間利用者40万人、一つのコーナーでは、中国の全新聞140社を毎日、入替えて備えてあった。このコーナーでは、毎日平均300名、年間9万人が利用しているとの事、五階建ての建物には、いくつものコーナーがあり、たくさんの人が勉強していた。キッズコーナーも充実していた。八代市より360冊の本が寄贈されたコーナーも案内してもらった。図書館の目的は、本を読むばかりでなく、社会の人の交わりの場でもあるとの事でした。

○旧イギリス領事館も訪問

北海市図書館フロアーにて説明を受ける

八代市寄贈の本の説明を受ける

八代市寄贈の本棚の前にて

北海市図書館入口にて北海市職員さんたちと

鉄山港工業団地、造船所視察

造船所の製造風景

鉄山港工業団地ガラス工場全景

ガラス工場の視察、工場内にて説明を受ける

ガラス工場内視察

ガラス工場内視察を終えて八代市の名産品を

製紙工場視察

製紙工場での紙コップ製品の説明

製紙工場の全景の模型

最後にお礼として八代市の名産品を

専門学校訪問（中央校長先生）
先生、指導者　５００名
生徒　　７，０００名

校長先生より作品の説明を受ける

貝細作品

世界の貝の展示場

ビデオを使った学校の説明風景

橋本団長
地元テレビ局よりインタビューを受ける

会派　自由民主党　{礎・絆・和}　　行政視察所見}

委員名「谷川　登」

視察日　令和2年1月6日｛月｝～10日｛金｝
視察先　中国北海市
調査項目　中国北海市「友好都市」海外行政視察

北海市人民代表大会｛市議会｝の表敬訪問意見交換及び友好協定関係強化については、平成8年八代市は、3月に中華人民共和国広西壮族自治区の北海市と友好都市関係を提携している。
又、それ以来、善燐友好の精神に基づき、平等及び互恵の原則に従い、教育、文化、スポーツ、医療、経済などの分野で行政や市民による交流を活発に行っている。
平成17年8月の市町村合併後も、友好都市を継続することが両市長により確認されおり、令和元年１０月には、北海市青少年友好訪問団15名が八代市を訪問している。
又、12月には、八代市青少年友好派遣団13名が北海市を訪問し交流を行っております。
また、友好都市中国の北海市立図書館には、八代市図書コーナーが設置してあり沢山の本が展示されている。
北海市老街は、全長4kにわたり古い街並みとして、商店街に沢山の方が訪れる場としてにぎわっている。
鉄山港工業団地ガラス工場は、自動車のフロントガラス、太陽光パネルなどを製造行っている。年間売上金額120億円、社員数120人
また、鉄山港湾は、船を製造する造船工場で一年間で、5500トン船を50隻を製造をしている。
又、今回八代との友好都市中国北海市の人代常委会副主任謝安河さん他、5名の方と意見交換ができました。
意見交換のなかで、北海市より本年の９月下旬～10月中旬にかけて八代市に訪問予定である。
今後も、八代市と北海市友好都市関係を継続することが大切だと思う。

中国北海市(友好都市)海外行政視察について

西濱和博

1　北海市人民代表大会(市議会)への表敬訪問、意見交換会…1月7日(火)

(1)対応いただいた方(次の6名)

- 謝安河　氏(北海市人民代表会議　副主任)
- 余海粛　氏(北海市人民代表会議　外事僑務民族宗教委員会　主任委員)
- 葛慶新　氏(北海市人民代表会議　大財経済委員会　主任委員)
- 陳月梅　氏(北海市人民代表会議　大教育科学衛生委員会　主任委員)
- 蘇　文　氏(北海市外事弁公室　主任)
- 王才儒　氏(北海市鉄山港区人大常委会　副主任)

(2)表敬時の謝安河氏からの歓迎の言葉(概要)

「北海地域は、シルクロードの起点の一つであり、海上貿易のビジネス港として発展してきた。中国国内において、今や、インフラとして、空港、港、鉄道の全てを備えている都市は他にはない。

北部湾経済圏としても科学的な発展を遂げており、様々な分野で重要な位置を占めている。

八代市と北海市は、1996年に「友好都市」の締結をした。これまで、スポーツや文化等の交流を通じて双方の関係が深まってきた。両市は、似ているところ、また、補足できるところがあることから、これからも互いに協力しながら発展していける。両市間では、特に教育と文化の交流が活発であり、今後も緊密な関係により実り多き成果を期待している。

17年前、肩を並べて設置した二匹の「タツノオトシゴ」(モニュメント)は、両市の友好の証しである。

今回の八代市議会の訪問が、互いの友情と交流を深めることになると期待している。一緒に貿易交流、文化交流等が促進していけるようにしよう。」

(3)意見交換会において

【先方】

- 八代市と北海市は、これまで主に、教育、経済、スポーツ、文化等の関係団体による交流を行ってきているところ。特に、子どもたちの交流が活発であり、このことはとても意義あることと認識している。今後は、ジュニア世代はもとよりであるが、私たち議会間の交流も深めていければと考えている。
- 私たちの議会は、広西壮自治区における政府としての議員立法権を有しているが、八代市議会にあっては法律の立法権は与えられているのか。
- 北海市の議会は、現在36人で構成しており、うち9人が女性議員である(全体の1/4)。

【西濱からの発言】

- 私は、2012年に広西壮南寧市で開催された北部湾岸経済フォーラムの電子情報サミット会議に出席したことがある。当時、北海市を含む北部湾岸圏域における中国の科学技術の進歩には、目を見張るものがあったことを記憶している。

【謝安河 氏】

・その会議は科学技術に関するものであったが、北海市と八代市とでは、例えばどのようなかたちで生かせていけそうか。

【西濱】

・2011 年に、八代市内にある当時の八代高専(現熊本高専八代キャンパス)が、北海市に設置してある北京航空天大学北海学院と交流協定を結んでいる。八代の高専は工業系の専門学校であり、八代地域はもとより広く社会の科学技術分野に関わりを持っている。私もその学校の卒業生であるので、今後、両校の交流の機会を大切にしながら科学技術を通じてのまちづくりへの貢献も応援していきたい。

(4) 【所見】

①北海市の概況

・北海市は、中華人民共和国南部の広西壮自治区にあり、この自治区は、中国最大の少数民族チワン族の原住地である。西は雲南省、北は貴州省と湖南省、東は広東省と接しており、南はトンキン湾に面している。1958 年に、現在の広西壮自治区に改編された歴史があり、北海市を含む 14 市により構成されている。

北海市の人口：約 171 万人、面積：3,337 ㎢。

・1996 年 3 月 5 日、北海市の楊基常市長が八代市を訪問し、「友好都市」の締結調印を行った。北海市は本市のほか、アメリカのモンタナ州、オーストリアのアケルンテン州、ロシアのヴオロネジ州とも友好関係にある。

・北海市へ進出している主な日系企業としては、製造業関係会社が約 4 割を占めているが、例えば、ＮＥＣ、シチズン、丸紅、王子製紙等がある。

②北海市人民代表大会(市議会)への表敬訪問、意見交換会を通じて

・先ず、本市の訪問に際し、公務多忙の中にもかかわらず、北海市人民代表大会(市議会)の副主任である謝安河氏をはじめ、各委員会の幹部議員が揃って対応いただいたことに感謝と敬意を表したい。

謝安河副主任からの歓迎の挨拶では、北海市と八代市との友好都市協定を結んでから、これまでの両市の交流の経緯を振り返り、その意義を尊重されており、今後、更なる信頼関係を築いていきたい旨を強く語っておられた。

そのための一つの新たなあり方として、引き続きの意見交換の席において、先方の出席者の中から、両市の議会における交流の機会を提案されたところである。

これまでは、両市の行政関係者、経済関係、スポーツや文化分野における交流が主であったが、今回、議会間の交流に言及されたことは、先方の本市に対する期待の表れの一つではないかと受け止めた次第である。

今日の急速な技術の発展と国家の枠を超えた経済の結びつきの強まりにより、人・物・情報の流れは、地球的規模に拡大してきている。このような中で、諸外国、とりわけアジア隣国との交流は従来の国家間レベルのあり方から、地域レベルとしての交流が重要な時代を迎えている。熊本県も「アジアとつながる」を掲げていることからも、そのスタンスの進展に期待が膨らむ。地域レベルの交流の礎となっていくのが、まさに都市間の友好都市の協定であると改めて認識した次第である。この地域レベルの交流は、異なる文化を持つ他国との相互理解を一層推進するとともに、交流の過程において自国や自らの住む地域を顧みることにより、都市としての個性や主体性をより明確なものとする

ことができると考える。

"Think Globally, Act Locally" という言葉があるように、地球規模で考え、足元(地域)から行動することがいかに大事かということを改めて実感したところである。

我が国においては、「国際交流のまちづくりのための指針」を策定しており、国際交流の高まりを受けて、いかにこれからの地域社会を築いていくかが重要だと促している。

今後、さらに魅力ある八代の地域づくりために、今回の視察の経験を生かしていきたいと、気持ちを新たにした次第である。

2　鉄山港湾視察…1月8日(水)

(1)現在、北海市街地域と鉄山港を結ぶいわゆる臨港道路(延長：L≒40㎞)が建設中。
(うち、23㎞が8車線、残りの17㎞は6車線)

(2)鉄山港内の造船会社を視察

- 経営体：国有会社ではなく民間会社。ベトナムで外貨を稼ぎ、中国で起業した(華僑)
- 事業内容：造船と船の修理。中国最大の造船工場とのこと(年間に50隻を造船)
  約6か月で1隻を造っている。最大2万トン級の船も造っている。
- 従業員数：約150人

3　鉄山港工業団地内の企業視察…1月8日(水)

(1)ガラス工場

- 経営体：国有会社ではなく民間会社。
- 第三期の事業計画期間の現在、第一期分が完成したばかり。
  第三期完了後の売上高を年間120億元(約1,920億円)と見込んでいる。
- 従業員数：約120人(オートメーションラインの導入により人件費も合理化)
- 主に建築用のガラスを生産(長さや厚さは、オーダーメイド可能)

(2)製紙工場

- 経営体：国有会社ではなく民間の合弁会社(本社：スペイン)。
- 生産品：主に、飲料用の紙パック類。
- 当地に進出した理由：広西地方は、木材(8万haの林野)と水が豊富。
- 現在の工場の敷地面積：約170ha(敷地内には、自家発電施設(燃料は石炭)も有り)
  ※土地はすべて政府所有。50年間の土地使用貸借契約を結んでいる。
- 投資額：約192億元(約3,072億円)
- 従業員数：約1,100人
- 生産量：紙製品として約45万トン
- 原材料の入手先：現在国内産の木材(樹齢6～10年)を使用しているが、全体の2/3は、南アフリカから輸入している。
- 全体計画としての残りの工場完成まで、約18か月。
- 現在の売上高：約22億元(約252億円)
- 当該工場の立地に際し、建設事業費の約15%を政府が財政支援している。
- 会社の経営状態が良好であれば、従業員の社会保険料が、政府による3か月間の減免措置あり。

(3) 【所見】

・今回視察した３か所の工場は、鉄山港の工業地帯に立地する民間会社であった。
いずれも国有会社でなく民間が経営主体であるものの、この工業地帯へのアクセス道路(臨港道路)のインフラ整備や政府の所有する土地を工場用地として貸借するなど、政府による大きな支援が講じられている様子。

ここで、視察先の一つである「ガラス工場」のケースを具体例として取り上げてみたい。この工場の経営主体である会社は、1988 年にもともと深州市で創立。主にクリーンエネルギーとガラスの生産を手掛けてきている。グループ会社の中には、香港証券取引所における上場企業もある。

同社が製造する製品には、高品質フロートガラス、自動車用ガラス、超薄板の電子ガラス、太陽光発電用ガラスのほか、太陽光発電施設や蓄電設備も扱っている。
特に、太陽光発電用ガラスの生産量は世界一で、世界シェアの約 33%を占めている。

2018 年におけるグループとしての売上高は、238 億香港ドルを超えており、純利益は、実に約 67 億香港ドルに及んでいる。

現在、北海市のほか中国国内に７つの生産拠点を有しており、また、海外ではマレーシアにも工場を設けている。国際販売ネットワークとしては、140 余りの国や地域と連携しており、中でもアメリカ、カナダ、オーストラリアは三大輸出先となっている。なお、輸出製品としては、自動車用ガラス、フロートガラス、建築用の省エネガラス等が主な物である。

更に、このガラス工場の立地に際し「北海プロジェクト」というものが存在している。三期に分けて、12 本の超白・超厚板・超薄板の高品質のフロートガラス生産ラインを建設する予定となっている。その中には、400 万枚の自動車用フロートガラス、UV カットガラス及び太陽光発電用ガラスの生産ラインが含まれており、年間の売上高として、なんと 120 億元(約 1,920 億円)を見込んでいる。伴う、国家税収は約 10 億元に達する様相である。

2018 年から、ここ北海市地域への投資がスタートしており、各進出企業に対し、広西自治区と北海市から多大な支援が講じられている様子。例えば、中国国内で実施されてきた同規模のプロジェクトより、２か月ほど建設工期が短縮できているとのこと。

2019 年 10 月に、一本目の特殊超白高品質のフロートガラスの生産ラインが完成したばかり。このフロートガラスの生産ラインの建設スピードと効率性はいずれも世界記録であると同社は胸を張っている。更に、第二期と第三期の建設における残りの６本の生産ラインは、2020 年７月頃に建設工事をスタートさせ、2021 年末には、稼働開始の予定とのこと。

このように、アクセス道路のインフラ整備はもとより、広大な工場用地の提供、また、工場建設に伴う財政支援措置等、政府や地元行政の手厚い支援を背景に、民間資本による大規模な工場立地が 2018 年度以降、急加速度的に展開している。

併せて、高品質な製品の供給と既に販売ルートも確実に軌道に乗せており、年間売上高の目標値は、夢物語ではなさそうである。

一方、造船会社の現場施設においては、造船そして修理の場所は、何れも屋外(露天)であり、足場も竹を材料とした簡易なものであった。恐らく、日本のように労働安全衛生法などの関係法令が厳しくないことから、生産コストも低く抑えることができているのではないかと思われる。

4　北海市内の３施設の視察

(1)北海市図書館…１月７日(火)

・８階建、延べ床面積：Ｓ＝800㎡

1966年建設。1990年に大規模な拡張工事を実施(収蔵書籍数：約80万冊)

・年間約40万人の利用者数。従業員数：約60人。

・年中無休(利用時間帯：夏季は、８時から20時まで。冬季は、８時から18時まで)

※セルフサービスラボラトリーは24時間利用可(仮眠室も有り)

・図書貸し出し：一人一度に３冊まで可。最大40日間(延長も可能)

・八代市の図書コーナーが設置してある。(本市から約360冊の図書が寄贈)

・令和元年８月、北海市は八代市立図書館を視察した。

2002年より、互いの図書館で交流を深めてきている。

【所見】

この施設には、次に挙げるような様々な先端技術が導入されていた。

・施設玄関前では、入館前に入館しようとする者の顔写真が撮られる「顔認識」機能。

・玄関に入ると、ＡＩロボットが入館者の問いかけ等に対応する自動案内機能。

・図書返却時の無人化(オートメーション化)

・電子図書の閲覧。

・当日の入館者数や貸出し図書数などを瞬時に大型スクリーンに映し出す。等々。

図書館と言えば、古典的な空気感が漂う場所とのイメージがある中、今回視察したこの図書館には、いたるところに先端テクノロジーが見受けられ、市民にとっての図書利用に大きく貢献していることが伺い知れた。

また、館内には、新聞を閲覧するためだけの部屋が設けられていた。ここには、中国国内の約140もの新聞社の毎日の新聞が取り揃えられており、視察日も多くの市民に利用されていた。聞くところによると、年間約９万人が来室しており、一日当たり約300人の利用状況という盛況ぶりである。

館全体としての年間利用者数は、約40万人(一日当たり平均約1,100人)とのことであるが、このように多くの人々に利用される理由について考えてみた。

先ず、約80万冊という桁外れとも思われる書籍を収蔵していることが挙げられると思うが、何より、利用時間に特段の配慮がなされていると感じた。年中無休であるうえに、一日の利用時間帯が時期により異なるものの夏季においては、夜の８時まで利用可能となっており、仕事や学校を終えた人のニーズに応えている。また、「セルフサービス・ラボラトリー」と呼ばれる部屋があり、ここは、24時間の利用を可能としており、仮眠室まで設置されている。

更には、幼児等の未就学児や低年齢層の子どもの立場にたったキッズルーム的な要素を兼ね備えた専用スペースも充実しており、子育て世代の方たちの利用にも配慮されている。

このように、北海市図書館は、その施設規模のスケールメリットのみならず、先端の科学技術を館内の随所に導入していることのほか、運用面においても可能な限り利用者の対場に配慮したサービス提供をされていると感じた次第である。

なお、昨年の８月、当該図書館の交流団が八代市立図書館の視察に訪れておられる。互いの良いところ学びながら、自らの図書館の今後に生かしていければ、市民にとってもその豊かさを享受できるものと考える。今後もこの交流を応援していきたい。

(2) 北海市中等職業技術学校の貝殻彫刻展示館…1月8日(水)

- この学校は1981年に創立の公立学校。政府はこの学校を北海市の中心部に置いた。
- 生徒数：約7,000人。教員数：約500人。
- コース：全19コース(職業技術学校)
- 中学を卒業後に入学する学校。この学校卒業後は、進学、就職どちらも選択可。
- この学校の目標：生徒たちの幸せのため、生徒たちの人生の発展のために支援する。
  生徒の個性を育て伸ばすため、学校は努力する。
- 学校は、企業と連携している…学校側は、産業の発展に寄与することを念頭に置いており、また、企業側は、生徒の研修先としての受入れ体制も整えているとのこと。

【所見】

- この職業技術学校は、そもそも中学校卒業予定者の中で高等学校の受援に失敗した生徒たちの受皿として創設された旨の説明を伺った。

一方、行政側は、この学校を開校するにあたり、あえて市街の中心部を選定したという。恐らく、高校受験に落ちたと自らをさげすむ心境になりがちな若者たちに、あえて多くの市民の目にとまりやすい場所に身を置くことで、胸を張って社会と向き合う環境づくりをされたのではないかと思いを巡らしたところである。

今や、生徒数は3学年で約7,000人規模であり、熊本県内と比べると規模の大きい高等学校からしても10倍ほどのスケールである。

今回、とりわけ校内の「貝殻彫刻展示館」を視察したところであるが、学校関係者から、この展示館(教室)は、"貝殻彫刻の文化を保護し、後世に伝承すること等を目的として設けた"旨の説明があった。実際に貝殻彫刻の作品を拝見すると、どれも緻密にそして臨場感あふれる力作ばかりであり、製作者それぞれに、伝統技法を生かしながら、丹精込めて作り上げられたものと察した次第である。

なお、貝殻彫刻に関しては、材料となる貝を手配し、単に作品を作るというものでなく、世界各地の貝の生態や特性を調査・研究しそのデータを保存活用しておられることも併せて知る機会となった。

同校との意見交換の席では、学校長から、「2000年に本校は大阪を訪れ、大阪教育大学等を視察し、日本の教育は我々にとってとても勉強になった。そのようなこともあり、八代市の職業訓練校のことを知りたい。また、文化財保護の発展のため、生徒の交流も図っていきたい。」旨の話もあった。

当該校は、中学卒業者の職業訓練の場として、また、伝統文化に関わる分野の教育にも力を入れておられるところであるが、この学校の特徴ある取り組みの一つとして興味深いものがあった。それは、この学校の3年生は、授業料が免除される制度があるとのことであり、最初は日本でいう就学支援制度の類のことかと思って話を聴いてみると、3学年になると同校と提携している北海市内の企業に労働力を提供することも可能であり、その労働力の対価が企業から同校へ支払われるという仕組みとのこと。このことをもって、その生徒の月々の授業料は免除される。

このようなシステムは、通常その発想さえ浮かばないものであるが、広く世界に視野を広げることにより、また、実際に現場に足を運ぶことにより、このような事例を知ることにつながったわけである。国際交流の意義の一つを実感した瞬間でもあった。

(3)近代外国領事館…1月9日(木)

- 北海市に、1840年、当初の領事館が設置された。その後、1877年に新たな領事館となる。
- 1999年までに、7カ国が領事館を置いた。⇒今は、ゲストハウス等として活用。
- 当時の領事館の役割について
  1. 社会の情報を収集すること
     ⇒望遠鏡、写真機、計量器、タイプライター等が残されている。
  2. 貿易に関するルールづくり
  3. 生活様式に関すること
- 当時、ハンセン病患者の収容ドミトリーが領事館敷地内にあった。
- 中国の近代歴史上、領事館の存在は大変重要で意義あるものであったとのこと。

【所見】

- 今回、領事館跡に入館する機会を得、残されたいわゆる時代の遺産を目の当たりにした。それぞれの国において、領事館は、大使館と同様にその時代時代の趨勢を表す象徴的な存在であったのだろうと思う。

  特に、中国においては、歴史上国内の権力闘争もとより他国からの侵攻に対応する時代も長く、それゆえに、近代における諸外国の各領事館が果たしてきた役割は、非常に大きかったものと推察し、感慨深いものとなった。

  急速な変化を続けている国際情勢にあって、他国の過去・歴史を知り、世界の中における自国のこれからのあり方等について、領事館跡の視察を通じて、改めて見つめ直す良い機会となった。

中国 北海市　海外行政視察

令和２年１月６日（月）～１０日（金）

福嶋安徳

○北海市人民代表大会（市議会）への表敬訪問、意見交換会

１．友好協定関係強化について

1996年3月友好都市締結以来25周年を迎える記念すべき今年八代市議会としての訪問は初めてのことである。これまで北海市と八代市の友好代表団の交流が盛んに、文化、経済、医療、教育、女性交流団として開催されて来た。今般は、北海市人大常務委員会の副主任；謝安河様始め7名の皆様の御丁寧なお迎えを受け我々訪問団も皆さんとの交流を友好に努力をしなければと考え新たした所です 代表の橋本団長も両市の友好交流がさかんに深められ両市の繁栄が発展し続けることを希望している挨拶された。

２．議会制度について

○鉄山港工業団地内の企業視察

魚船、造船場にも集製造中ある、まだまだ近代的な工場ではないが造船が着々と進められている。
年間3,080万t製造、年間収入1749億円。
社員36名、女性9名、
現在市内から港までのアクセス道路4車線延長40km整備中
2020年10月完成だそうです。

○鉄山港湾視察

○北海市内視察

人口171万人ともなる市内は大いにぎわいがある。
人も多いが車も多い。
4年前訪問した時は自転車での通りが多かったけれども今回は
バイクでの通りが主流になっていてさすがに街の発展しているなあと
思った次第です。
昔からにぎわった老街も商店の賑やかさが変わらず皆さん元気である。
中国でも有数の白砂が24kmも続くシルバービーチにはこの月でも
観光客で賑わっている夏になると国内外から多人の海水浴客が訪
れるなど観光も有名である。

○その他

シルバービーチの一角に北海市と八代市との友好都市記念
モニュメントが両市に一基ずつ建造されているが今回はその
地帯が工事中のため見ることが出来なかった。

中等職業学校の貝殻彫刻展示館

生徒数7,000人通学している学校を視察させていただきました。
貝殻彫刻の部屋へ案内いただき彫刻品を見学させて頂きました。
見せて頂いた一瞬驚嘆しまいました。貝と貝殻を集めるだけで
大変な作業であろうと驚いています。
いくつもの部屋に中国本土で金賞にかがやく作品がズラリと並んでいる。
その後校長先生と会談を行なわれ、校長先生いわく、日本の京都で
勉強されたとのことで是非八代を訪ねたいとのことでした。
八代の歴史と文化、芸術等に興味があるとのことでした。
是非交流の歴史も25年の交流を深めて来た経緯がありますので
八代において頂き八代の青少年に芸術のすばらしさを御指導
いただきたいと願うものです。

王才儒 广西北海市铁山港区
人大常委会副主任

手机：18907796991
电话：0779-8610202
邮箱：529933217@qq.com

地址：广西北海市铁山港区行政中心四楼

北海市人大
外事华侨民族宗教委员会

余海晴 主任委员

地址：广西北海市和平路东二巷2号 邮编：536000
电话：0779－3836161 手机：18677990681

北海市外事办公室
北海市港澳事务办公室

谢渝 国际交流科 科长

地址：广西北海市和平路93号 邮编：536000
邮箱：183951797@qq.com，beihaifao2026433@163.com
传真：0779-2020412 电话：0779-2038059 手机：13977948146

北海市人大教育科学
文化卫生委员会

陈月梅 主任委员

地址：广西北海市和平路东二巷2号 邮编：536000
电话：0779－2020605 手机：13978932399

北海市人民对外友好协会
Beihai People's Association for Friendship with Foreign Countries

薛冉冉 办公室副主任
Vivian Office Deputy Director

地址：中国广西北海市和平路93号 邮政编码：536000
Add: No.93Heping Road,Beihai,Guangxi536000,China
电话Tel: 0779-2034658（86-779-2034658）
传真Fax: 0779-2020412（86-779-2020412）
手机Mobile:18907799261 电子邮箱xueranran1203@163.com

No 1

議員名【前川祥子】

中国 北海市 海外行政視察

○北海市人民代表大会への表敬訪問、意見交換会

北海市側の挨拶：北海市の気候は中国のハワイと言われ歴史と文化の名所ですぐれた旅行都市である。2000年前に東南アジア、西アジア、ヨーロッパとの大切な貿易のための港となった。港、鉄道、空港、高速道路を整えているのは北海市しかない。そのため生活と仕事に適している。八代市とは1996年に友好都市を提決に以来、多くの分野に於いて友好を深めてきました。両市は環境資源に於いてもとても似ている面が多い。これからもお互い刺激し合い、協力していき、ウィンウインの関係を築き上げて行きたい。今回の八代市の訪問で、信頼と友情を深め、さらに交流を深めて行きたい。また多くの場所を訪問して頂き、色々なアドバイスをして頂ければうれしい。今後は八代市議団全員の皆様と交流をしていけることを望む。

八代市議団：そのようになるように努力する。

No 2

議員名【前川祥子】

○北海市立図書館

・5階建てで書籍は80万冊収納

・全館に児童から年配者向けの様々な用途の部屋が設置されており、新聞等は毎朝、140社入れている。年間を通して全館の利用者は40万人、入館は無料で年中無休。世界の国の地域から持ち寄られた本はそれぞれの地域別の図書コーナーがあり、八代市の高校生が寄贈した、八代市図書コーナーがあった。老若男女の市民が自分達が活用したい部屋で、読書や学習に勤しんでいた。昔は図書館の利用は本を借りるだけであったが、今は自分達の社会の視野を広めるために学習したり、いろいろな人々の集会の場としても利用している。

No3

議員名【前川祥子】

北海市老街

1800年代初期の建て物が並んだ街で1Km以上続いている。建物はレンガやコンクリートブロック造りで、当時としては金持ちの人でしか建てられなかった。現在は主に食物やお土産を販売する店で、それぞれの物件の角に立て看板を取り付け、街の景観を統一させてある。この街並の風景は観光地として政府が保存に力を入れている。

○鉄山港工業団地

造船所：造船と船の修理をし、1500トン級の漁船を年間50隻造っている。一番大きな船は2万トンを造る。船一隻を造るのに半年かかる。現在7隻の船を造っていた。造られた船はそのまま海から出て行く。

※中国の造船所で有名なのは大連、上海、広東。

No4

議員名【前川祥子】

○ガラス工場：中国全土で一番大きなガラス工場。
ガラスの材料は近辺で集積できる石英砂を使用
投資額250億円　1988年完成　従業員122人
主に車、住宅の窓、太陽光発電に使用、
製造はオートメーション化され、工場内は清潔。

○製紙工場：合併会社で主に液体用の紙パックを
製造、原材料は北海市に多く生育する「あん樹」
の木から作る。引きの強い紙が出き、紙幣
にも使用されている。「あん樹」は植樹から6年
から10年で成長し、利用できるので回転が早い。
広西自治区政府の期待が高く　あと3つ
工場を増設する予定で、中国政府の投資
としては一番大きな工場。生産高は年間
22億元。

鉄山港工業団地内の発電の元は、ヨーロッパ
から輸入している石炭を熱量に変えて、パイプラインで
送り込まれた物を利用している。

No 5

議員名【前川祥子】

○中等職業学校の貝殻彫刻展示館見学　(1981年完成)

中国伝統の貝殻彫刻の作品の数々を見学し、学生が中国伝統文化技術を修得している。専門コースは全部で19で15才～18才のこども達が7000人いて、教師は500人。

希望の高校に落ちた子供や貧しくて進学できない子供達が全員この専門学校に入学することができる。学費は全額免除。2年間は学校に行き、その後は半年間体験したい企業で仕事をする。その対価、1人4万元を企業が学校に納入する。この経費は学校の収入となる。卒業後は大学に進学したり、学校からの斡旋で企業に就職する。

※政府(広西自治区)は非常に教育を重視している。

※教員達が大阪の幼稚園、小中高の学校の訪問をしている。専門学校の環境保護の学習等とてもためになった。子供達の教育の交流をこれからやっていきたい。